

エコアクション21
環境経営レポート

共同グラビヤ印刷株式会社

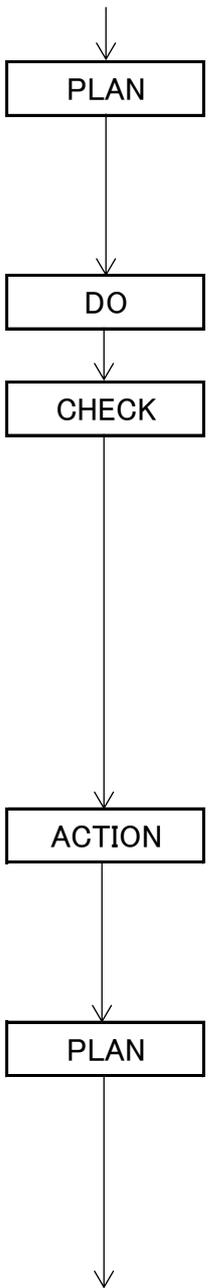
発行日 : 2022年7月9日

改訂日 : 2022年9月26日

(対象期間2021年4月～2022年3月)

目 次

1.組織の概要	3
1) 事業者名及び代表者名		
2) 所在地		
3) 環境管理責任者		
4) 事業の内容		
5) 事業の規模		
6) EMS実施体制	4
2.認証・登録の対象範囲	4
3.環境経営方針	5
4.今年度の主要な環境経営計画の内容	6
5.今年度の環境経営目標およびそれに対する取り組み結果	7
6.取り組み結果に対する評価	8
7.本社以外の登録サイトごとの活動に対する評価	10
8.教育訓練体制についての評価	10
9.環境関連法規への違反、訴訟等の有無	10
10.代表者による全体評価と見直し・指示	11
11.次年度の活動管理について	12
12.中期計画(2022年度～2026年度まで5ヶ年)	12
13.次年度の主要な環境経営計画の内容	13



1.組織の概要

(1)事業者名及び代表者名

共同グラビヤ印刷株式会社
代表取締役 八谷達也

(2)所在地

〒496-0031 愛知県津島市埋田町5丁目100番地

(3)環境管理責任者

責任者	総務部長	尾関 寧
連絡先	電話:0567-25-2356	FAX:0567-26-3013
事務局	業務部業務課係長	柴田 聡

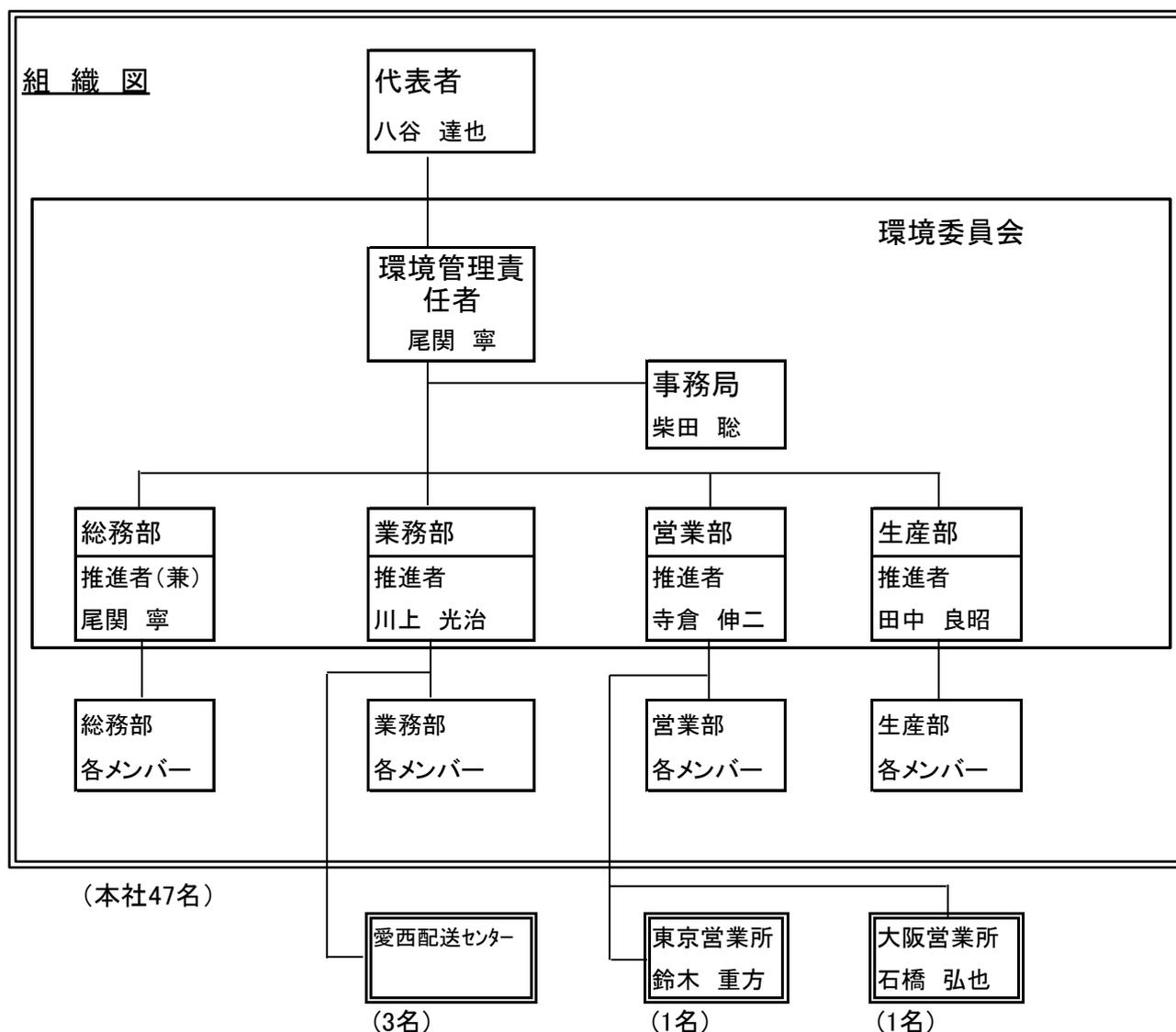
(4)事業の内容

グラビア印刷及び包装資材販売

(5)事業の規模

売上	12.3億円(2021.4月～2022.3月)
従業員数	52名(2022.4.1現在)
本社工場延べ床面積(駐車場含む)	2,183 平方メートル
愛西配送センター延べ床面積	1,904 平方メートル
東京営業所延べ床面積	40 平方メートル
大阪営業所延べ床面積	28 平方メートル

(6)EMS実施体制



役割・責任・権限

役割	担当者	責任・権限
代表者	社長 八谷達也	環境方針作成 環境管理責任者任命 活動に必要な各種資源用意 代表者による活動全体の評価と見直し
環境管理責任者	総務部部长 尾関寧	EMS総責任者 システムの構築 運用状況の監査 システムの適合性・活動の実績を社長へ報告
事務局	柴田聡	全体計画立案、文書作成管理、活動の実績集計、法規等取りまとめ EMS事務管理 環境活動レポートの作成 啓発チラシの作成
環境委員会	上図の通り6名	各部門の活動計画の立案 手順書の作成
EMS推進者	各部・部、課長	教育訓練の実施、計画の実施状況確認・記録 自部門の問題点の発見
一般メンバー	上記以外の全従業員	環境方針の理解 取り組みへの積極的な参加

2. 認証・登録の対象範囲

(認証・登録番号 0002785)

事業活動 : グラビア印刷及び包装資材販売

対象事業所 : 本社、愛西配送センター、

東京営業所、大阪営業所

環 境 経 営 方 針

環境理念

共同グラビヤ印刷株式会社は、食料品関連の包装資材の生産活動を通じて環境にやさしい包装資材の提供を基本理念として、社会に貢献します。

環境汚染の予防と環境保全の継続的改善により、地球温暖化の防止と環境循環型社会の形成をめざします。

環境に配慮した商品を通じて、お客様の満足度を向上させられるように取り組みます。

基本方針

1. 共同グラビヤ印刷株式会社に、適用される法規制、共同グラビヤ印刷株式会社が同意するその他の要求事項を順守致します。
2. 環境経営システムを運用するに当たり、以下を目標に展開いたします。
 - ①グラビヤ印刷の生産活動において、省エネルギーに取り組み二酸化炭素の削減に努めます。
 - ②グラビヤ印刷の生産活動において、廃棄物の削減・リサイクルの推進に努めます。
 - ③機械使用時等の節水により総排出量の削減に努めます。
 - ④資材調達でのグリーン購入を推進いたします。
 - ⑤環境配慮商品、サービスの提供に努めます。
 - ⑥有害化学物質の使用量の削減に努めます。
3. 本方針を全社員に周知し、環境経営システムの継続的改善を進めます。

制定日：2009年 3月31日

最終改定日：2020年 2月 1日

共同グラビヤ印刷株式会社

代表取締役 八谷 達也

4 今年度の主要な環境経営計画の内容

1) 二酸化炭素排出量の削減取組み		
購買電力量	対象部署	責任者
A) 不要照明の消灯の徹底、節電ステッカ貼付	全部署	環境管理責任者:尾関
B) 冷暖房の設定温度の見直し、冷房時26℃・暖房22℃	全部署	環境管理責任者:尾関
C) パソコン等IT機器の使用管理の見直し	全部署	環境管理責任者:尾関
D) 機械のメンテナンス体制の充実	生産部	工場長:田中
E) 生産設備可働率の向上	生産部	工場長:田中
ガソリン・軽油の使用量		
A) アイドリングストップの徹底(ステッカの貼付)	全部署	環境管理責任者:尾関
B) 低速走行の励行、急発進の中止	全部署	環境管理責任者:尾関
C) 車のエアコン設定温度の見直し	全部署	環境管理責任者:尾関
D) 点検・整備の励行	全部署	環境管理責任者:尾関
E) 納品および営業活動のルートの見直しによる走行距離の削減	全部署	環境管理責任者:尾関
F) 配送トラックの走行距離・燃費データの把握と分析	業務部	業務部部长:川上
LPGの使用量		
A) 機械のメンテナンス体制の充実	生産部	工場長:田中
B) 生産設備可働率の向上	生産部	工場長:田中
C) 段取り向上による、工場稼働時間の短縮	生産部	工場長:田中
2) 廃棄物排出量の削減取組み		
一般廃棄物・事業系廃棄物		
A) コピー紙の再利用の促進	全部署	環境管理責任者:尾関
B) 紙管の回収及び再利用の促進	全部署	環境管理責任者:尾関
C) 再生紙利用の推進	全部署	環境管理責任者:尾関
産業廃棄物		
A) 良品の不良化の防止	営業/業務	業務部部长:川上
B) 試刷りの適正利用	生産部	工場長:田中
C) ロス・製造不良の削減	生産部	工場長:田中
D) オペレーターの技術向上	生産部	工場長:田中
3) 水使用量の削減取組み		
A) 節水ステッカの貼付	総務部	総務部部长:尾関
B) 手洗等の節水の徹底	全部署	環境管理責任者:尾関
C) 漏水チェック	全部署	環境管理責任者:尾関
D) 工場内の循環水の水量・水質の管理	生産部	工場長:田中
4) グリーン購入の取組み		
A) 事務用品のグリーン購入の推進	業務/東京/大阪	業務部部长:川上
B) 購入資材へのリサイクル材の積極的な採用	生産部	工場長:田中
C) 地元業者の利用	業務/東京/大阪	業務部部长:川上
5) 環境配慮品、サービスの取組み		
A) 溶剤を使用しないラミネートの推進	営業部	営業部次長:寺倉
B) 包装資材の古紙利用の促進	業務部	業務部部长:川上
6) 有害化学物質の使用量削減取組み		
A) トルエン・イソシアネートを使用しない加工法の提案	営業部	営業部次長:寺倉
B) 環境負荷の少ない化学物質への切替え	生産部	工場長:田中
C) インクの使用量の削減	生産部	工場長:田中
D) 5S活動によるインクの整理	生産部	工場長:田中
E) インク使用量の管理	生産部	工場長:田中
F) 空調機の使用管理	全部署	環境管理責任者:尾関
G) 残インクの再利用量の増加	生産部	工場長:田中

5. 今年度の環境経営目標およびにそれに対する取り組み結果

		基準年度実績値 (2016/4~2017/3)	今年度目標値 (基準年-5%)	今年度実績値 (2021/4~2022/3)	対目標 達成度	評価
二酸化炭素排出量 (売上1億円あたり) (kg-CO2換算)		54,250	51,538	総排出量: 555,683 kg-CO2 45,069	-12.6%	○
内 訳	電気使用量 (売上1億円あたり)(kWh) (kg-CO2換算)(※1)	24,958	23,710	24,410	+3.0%	×
	LPG使用量 (売上1億円あたり)(kg) (kg-CO2換算)	22,790	21,651	15,550	-28.2%	○
	ガソリン・軽油使用量 (L) (kg-CO2換算)	77,050	73,198	63,001	-13.9%	○
廃棄物等総排出量(kg)(※2) (売上1億円あたり)	(2015/4~2016/3)(※3) 13,331	(基準年-6%)(※3) 12,531	14,358	+14.6%	×	
水使用量(m ³)		1,444	1,372	1,627	+18.6%	×
環境配慮型商品・ サービス推進の取り組み		環境負荷の少ないノンソルベントラミネート工法の推進 ノンソルラミネートの生産高は昨年比+13.2%で内製比率は+4.3%。 ボタニカル(バイオマスインキ)の使用の推進 バイオマスインキ対象品、当期間中に48アイテム以上増加。				○ ○
有害化学物質使用量 削減の取り組み		インキ使用量の削減・環境負荷の低い化学物質への切替 結果:生産高比の印刷インキ使用量は前年より+9.0%となり 2年前の水準に戻ってしまっている。 溶剤再生機の稼働実績は、昨年比で-21.6%となり大幅に 減少してしまった。				×

※1 電気使用量から二酸化炭素排出量を算出する際に、エナリス(登録番号A0153)の2015年の値0.331を使用します。なお、東京営業所は東京電力より電力を購入していますが、全体に占める割合が低く、計算の簡略化のためすべてエナリスの値を用いて計算を行います。

※2 廃棄物総排出量＝一般廃棄物および産業廃棄物(廃プラ・ウエス・廃インキ・鉄くず)

※3 廃棄物の基準年度には(2015/4~2016/3)を使用。(2016/4~2017/3)の数値が例年に比べ突出して高かったため。それに伴い目標値の設定も基準年より-4%ではなく-5%としました。

上記の表の数値には、それぞれ以下の対象サイトの数字が合算されています

電気使用量 本社・愛西配送センター・東京営業所

LPG使用量 本社のみ(他のサイトではLPGは不使用)

ガソリン・軽油使用量 本社・愛西配送センター・東京営業所・大阪営業所
(ただし、全社一体での購入のためサイトごとの数字は把握不可能)

水使用量 本社・愛西配送センター・東京営業所

廃棄物等総排出量 本社・愛西配送センター・東京営業所

大阪営業所については、対象サイトが住居と兼用した建物内にあり、電気・LPG・水・廃棄物の事業活動による負荷だけを取り出して計測することが困難であるため、数字による管理は行っておりませんが、これらの使用量・排出量の削減活動に取り組んでおります。

6 取り組み結果に対する評価

1) 二酸化炭素排出量(売上1億円あたり)

結果： 二酸化炭素の排出量は、総エネルギー使用量のCO2換算値が前年比で-1.3%と減少させることができ、目標についても-12.6%となり達成しました。

評価： LPGおよび化石燃料使用量については減らすことができましたが、電力については前年よりも増加しました。

LPG(売上1億円あたり)

前年比 -3.6%で目標に対しても -28.2%と達成することができました。

旧工場の空調機の更新によって、ガスの使用先から空調が外れて加工機械のみとなって以降、生産高と密接にリンクしています。

電力(売上1億円あたり)

前年比 +4.0%と増加し、目標に対しても +3.0%と達成することができませんでした。

売上高以外に生産高や稼働日数等、あらゆる数値の変動に対してもそれを上回る増加率のため機械の稼働する時間や生産実績の増加だけでは理由とはなりません。新工場の空調機の更新によって、設備更新直後から単月で電力使用量が1割以上伸びているという傾向が出ていましたのでその影響が強いものと考えられます。

これまでは生産高が伸びると、生産高に強くは比例しない空調および照明での電力使用量のウエイトが減るため、数字が良くなる傾向にありました。しかし今年度初めて、生産高が前年を上回ったにもかかわらず、売上当たりの電力消費量が増加しました。

ガソリン・軽油

ガソリン・軽油については、前年比で -11.8%と減少し、目標値に対しても -13.9%となり目標を大幅に達成することができました。

2018年から3年間連続して減少しており、3年間で -23.5%にもなりました。

ガソリン単体については、-15.8%となりました。コロナウイルスの影響は前年度から引き続いており、今年度にとりわけ走行距離が減ったわけではありません。その中でこの数値となったことは、社用車の更新およびエコドライブを推進した成果が出ているものと考えられます。

軽油については、前年比で -1.6%となりました。配送トラックについては車両の更新はなかったため、走行距離又はエコドライブの効果と考えられます。売上高が前年より増加し物量は増えている中で軽油使用量は減少させることができたので、ルート効率化により走行距離の短縮もできていると評価できます。

2) 廃棄物等総排出量(売上1億円あたり)

結果: 廃棄物排出量については、前年比では -3.1%と減少したものの、目標に対しては +14.6%となり目標達成することができませんでした。

評価: 廃棄物の種類ごとに見ると、廃プラスチックと、木くず・紙くずが増えています。木くず・紙くずについては、原料の入荷時に当社に入ってくる木製のパレットを、これまでは製品の出荷用にも転用することができましたが、前年度あたりからお客様から衛生管理を理由に木製パレットの受け入れを断られる先が増えており出入りのバランスが崩れていることによるものと考えられます。廃プラスチックについては、売上げの伸び以上に増加しています。製品の歩留まり向上のためのデータ取りを始め、どの工程でも数値は良化しています。加工ロス率のともとも高い工程である、スリッターや製袋の比率も上がっておらず今回の件について生産現場からは理由を見出すことはできませんでした。次に想定される原因として、毎年不良在庫化した製品を廃棄処分するためその数量が例年よりも多かった可能性を考えました。毎年9月から10月にかけて行われることが多いのですが、今年度の10月において、直近48ヶ月内の最大値を40%上回るデータがありました。産業廃棄物の排出量は、回収日が月の締め日をまたいで前後しやすいため月によって大きくばらつくデータではありますが、月平均に対しても約2倍の数字となっており、このタイミングで不良在庫化した製品の廃棄が例年よりも多かったものと予想されます。廃油については前年よりも-30%となり大幅に減少していますが、これは例年は経年劣化したインキの整理を定期的に行っていたものが、今年度は行われなかったことによるもので、次年度以降もこの数字が維持されるわけではないと考えられます。

3) 水使用量

結果: 水の使用量については、前年比で +23.7%となり、目標値に対しても +18.6%となり達成することができませんでした。

評価: 前年度より週単位で集計しているデータによると、4月下旬から7月上旬にかけて例年より大幅に上回る数値が出ていたため、基準にもとづいて理由を調査しましたが更新した新工場の空調機がうまく排熱できていないため、ウォータークーラーにも負荷がかかっていたため水流を多くしたとの事でした。漏水等は発生していなかったため、そのまま監視を続けながら高い数字が7月上旬まで続きました。それ以降は平常値に戻りました。新工場の空調機の排熱については、他の方法も試みて対応しています。

4) 環境配慮型商品、サービスの推進の取り組み

溶剤を使用しないラミネートの推進

ノンソルラミネートの生産高は前年比で+13%となり、大幅増となりました。ただし前年度ほぼ同程度の減少があったため、結果としては前々年度と同水準になっています。働き方改革により、残業時間を基準におさめるために稼働時間も大幅に減少していましたが、人員配置を他の工程まで含めて融通するようにしたことで稼働時間を規制を遵守したまま回復させることができました。それに伴い、ラミネート全体の中のノンソルラミネートの割合も、前年度の55.6%から59.9%にまで増加しました。

ポタニカル(バイオマスインキ)の使用の推進

前年度に加工時に使用するインキをバイオマスインキを使えるように準備を進めました。今年度は、当社のお客様にリーフレットを使用するなどして積極的に売り込みをし、少なくとも48アイテムの新規デザインまたはデザイン改定の際にバイオマスマークをデザインに入れ込んだ製品が出来上がりました。

5) 有害化学物質の使用量削減の取り組み

環境負荷の少ない化学物質への切り替え

有害化学物質の管理の推進

インキ使用量の削減および管理

印刷機の生産高に対するインキの使用量は、前年比で +3%の増加となりました。

これにはバイオマス対応インキの推進のために、従来のインキの在庫を差し置いてバイオマス対応インキの在庫を新たに確保したことによるものです。

インキ使用量のデータを購入量で把握しているため、購入しただけで使っていない在庫となっているインキについても使用量として計算されています。

ラミネート機の生産高に対する溶剤の使用量も、前年比で +1.3%となり増加しました。

こちらは、タイプの切り替えは有りませんでした。購入「量」ではなく「金額」にて把握しており、今年度後半の値上げによる購入金額の上昇の影響を受けています。

この影響を排除した場合、ほぼ前年と同水準という結果になりました。

溶剤再生機の稼働実績は、前年比で -21.6%と大幅に減少してしまいました。

2021年7月から2022年2月にかけて、溶剤再生機を稼働させる担当者が他の機械の応援に回るなどして再生機の近くにいなかったことが原因と考えられます。

生産設備に比べると溶剤再生機はどうしても稼働の優先順位が低いため、人手不足の影響が大きく反映されてしまっています。

空調機の使用管理

空調装置を毎月1回点検し、故障によるフロンの外部流出がないか確認しています。

7. 本社以外の登録サイトごとの活動に対する評価

・愛西配送センター(常駐 0名)

電力使用量について、前年比で -9.6%となり大幅に減少しました。前年度より徐々にエレベーターの稼働を抑えるような荷物配置の整理が進んでいますが、2020年7月ごろから効果が出ており、今年度では4~6月の前年度比に影響がありました。また空調服を活用してエアコンの稼働を最小限にする工夫をしています。

・東京営業所(所属 1名)

電力使用量が前年度比で -14%となり大幅に減少しました。コロナの影響による営業活動の制限が徐々に緩和され、事務所にいない時間が増えたことによるものと推測されます。

・大阪営業所(所属 1名)

ガソリン・軽油使用量、および環境にやさしい製品の推進の2つの項目のみの参加となっています。この2つとも全社あわせての評価となるため、大阪営業所の活動については、本社の活動とまとめて評価します。

8. 教育訓練体制についての評価

新人研修については、該当期間に新人が入社しなかったため実施されていません。

部課長会議において、状況の報告が行われるようになりました。特に今年度の後期は、電気使用料金が高騰したため、議題となることが多くなりました。

9. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

当社の環境管理に対する近隣住民からの苦情・指摘は直近3年間ありません。
環境関連の法規につきましては、『廃棄物の処理及び清掃に関する法律』・
『PRTR法』・『騒音規制法』・『振動規制法』・『フロン排出抑制法』などが適用対象に
該当いたします。これらの法規に対し、当社で順守状況を確認致しました結果、
違反はありませんでした。また、外部からの違反の指摘もありませんでした。

10. 代表者による全体評価と見直し・指示

前年度の活動に対しての評価

- ・ バイオマスインキについては、実績が順調に増えつつあるので引き続き推進すること。
- ・ 産業廃棄物中のリサイクル品の仕分けについて、営業部にも依頼をかけて分別するように指示しましたが、廃棄時の形態(同一パレットにできる限り積載する)の都合で思ったほどは分別が進みませんでした。一方、スリッター工程よりこれまで分別の対象外となっていた工程でのロス(耳)を分別するという提案があり、自発的な取り組みということで一歩進めることができました。
- ・ ノンソルベントラミネートは、一昨年並みの生産高を回復できたため目標は達成されました。
- ・ 部課長会議にて実績の発表がされるようになりましたが、長期的に継続する問題に対して報告するだけに終わることがあるので、アクションを起こしてほしいと要求します。

今年度の課題について

- ・ 電力消費量が、年間を通じて増加しています。売上高および生産量が上昇していますがそれを上回るペースで伸びています。今年に入って、世界の情勢の変化により電力の料金が著しく値上がりし、電力を節約することは環境だけではなく経営的にも急務となっています。今までも様々な取り組みが行われていましたが、コストを計算し元手が回収できる見込みがあればこれまで以上に大掛かりな対策を打つことも視野に入れてください。
- ・ 新工場の更新した空調機の電力消費量が想定以上にかかっていますが、実際に稼働開始してから気づいたことでは排気のエアフローが悪く、熱がこもって旧工場の空調にも悪影響が出ています。エアフローを改善できないか検討してください。

今年度の活動内容の変更について

- ・ 今年度の環境方針、環境目標、環境計画、実施体制については変更はありませんが担当者が変更となった部分があるので、引継ぎが滞らないように努めるとともに、変更のないメンバーについても再度自分の役割について見直しを行ってください。

11. 次年度の活動管理について

次年度の活動レポートについては 2023年6月30日までに作成するものとします。

EMS管理者および担当者が変更されたため環境経営計画の各項目の責任者も変更します。

12. 中期計画(2022年度～2026年度まで5ヶ年)

- ・今年度まで使用していた目標値については、設備更新などにより年間1%の削減目標を大幅に達成したものがあり、この先の削減が滞ったとしても目標がクリアできる状況が続いてしまう状態の項目があります。そこで前年度に、基準値および目標値を最新の状況に即したものに再設定した中期計画を策定済みです。次年度はこの新しい中期計画に従います。

目標値は前年度(2020年度)の数値を元に設定済みであるので、計画の初年度である2022年度は基準値-1%ではなく-2%からのスタートとなります。

	二酸化炭素 総排出量 (kg-CO2)	電力使用量 (※1) (kg-CO2換算)	LPG使用量 (kg-CO2換算)	ガソリン軽油 使用量 (kg-CO2換算)	水使用量 (t)	廃棄物等 総排出量 (kg)
2020年度実績値 売上:11.72億円 (売上1億円あたり)	571,043 (48,728)	310,784 (26,520)	189,144 (16,140)	71,115	1,317	(※2) 171,200 (14,609)
2022年度目標値 売上1億円あたり	47,753	25,990	15,817	69,693	1,291	14,317
2023年度目標値 売上1億円あたり	47,266	25,724	15,656	68,982	1,278	14,171
2024年度目標値 売上1億円あたり	46,779	25,459	15,494	68,271	1,264	14,025
2025年度目標値 売上1億円あたり	46,292	25,194	15,333	67,559	1,251	13,879
2026年度目標値 売上1億円あたり	45,804	24,929	15,172	66,848	1,238	13,732

環境配慮型商品・ サービス推進の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ノンソルベントラミネートの年間生産高について7500万円を維持する ・ボタニカルマークまたはバイオマスマークを付与した製品を、2026年までに新規で100アイテム受注し、生産する
有害化学物質使用量 削減の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・分別を徹底し、廃プラスチック中の再生品の割合について25%以上を目指す ・インキの重量あたりの印刷生産高を、2020年度を100とした指標で2026年度までに「103」を目指す。(※3)

※1 電気使用量(kWh)から二酸化炭素排出量を計算するための係数は

0.374【アスエネ(登録番号A0678):2020年)を使用

※2 前回の中期計画(2017～2021年)にて、基準値を設定する時点で集計対象外だった「木くず・紙くず」が今回の中期計画では集計対象に含まれるため、前回の中期計画の値よりも大きくなります。

※3 これまではインキの購入額をもとにしていましたが、近年の価格変動が激しく、環境活動の成果を正しく評価するには不安定と考えます。そのため今後は重量をもとにした指標を採用します。

13. 次年度の主要な環境経営計画の内容

1) 二酸化炭素排出量の削減取組み		
購買電力量	対象部署	責任者
A) 不要照明の消灯の徹底、節電ステッカ貼付	全部署	環境管理責任者:尾関
B) 冷暖房の設定温度の見直し、冷房時26°C・暖房22°C	全部署	環境管理責任者:尾関
C) パソコン等IT機器の使用管理の見直し	全部署	環境管理責任者:尾関
D) 機械のメンテナンス体制の充実	生産部	工場長:田中
E) 生産設備可働率の向上	生産部	工場長:田中
ガソリン・軽油の使用量		
A) アイドリングストップの徹底(ステッカの貼付)	全部署	環境管理責任者:尾関
B) 低速走行の励行、急発進の中止	全部署	環境管理責任者:尾関
C) 車のエアコン設定温度の見直し	全部署	環境管理責任者:尾関
D) 点検・整備の励行	全部署	環境管理責任者:尾関
E) 納品および営業活動のルートの見直しによる走行距離の削減	全部署	環境管理責任者:尾関
F) 配送トラックの走行距離・燃費データの把握と分析	業務部	業務部部长:川上
LPGの使用量		
A) 機械のメンテナンス体制の充実	生産部	工場長:田中
B) 生産設備可働率の向上	生産部	工場長:田中
C) 段取り向上による、工場稼働時間の短縮	生産部	工場長:田中
2) 廃棄物排出量の削減取組み		
一般廃棄物・事業系廃棄物		
A) コピー紙の再利用の促進	全部署	環境管理責任者:尾関
B) 紙管の回収及び再利用の促進	全部署	環境管理責任者:尾関
C) 再生紙利用の推進	全部署	環境管理責任者:尾関
産業廃棄物		
A) 良品の不良化の防止	営業/業務	業務部部长:川上
B) 試刷りの適正利用	生産部	工場長:田中
C) ロス・製造不良の削減	生産部	工場長:田中
D) オペレーターの技術向上	生産部	工場長:田中
3) 水使用量の削減取組み		
A) 節水ステッカの貼付	総務部	総務部部长:尾関
B) 手洗等の節水の徹底	全部署	環境管理責任者:尾関
C) 漏水チェック	全部署	環境管理責任者:尾関
D) 工場内の循環水の水量・水質の管理	生産部	工場長:田中
4) グリーン購入の取組み		
A) 事務用品のグリーン購入の推進	業務/東京/大阪	業務部部长:川上
B) 購入資材へのリサイクル材の積極的な採用	生産部	工場長:田中
C) 地元業者の利用	業務/東京/大阪	業務部部长:川上
5) 環境配慮品、サービスの取組み		
A) 溶剤を使用しないラミネートの推進	営業部	営業部次長:寺倉
B) 包装資材の古紙利用の促進	業務部	業務部部长:川上
6) 有害化学物質の使用量削減取組み		
A) トルエン・イソシアネートを使用しない加工法の提案	営業部	営業部次長:寺倉
B) 環境負荷の少ない化学物質への切換え	生産部	工場長:田中
C) インクの使用量の削減	生産部	工場長:田中
D) 5S活動によるインクの整理	生産部	工場長:田中
E) インク使用量の管理	生産部	工場長:田中
F) 空調機の使用管理	全部署	環境管理責任者:尾関
G) 残インクの再利用量の増加	生産部	工場長:田中